

第6回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年10月23日（水）
午後5時30分～6時50分
会場：core 塩尻

次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 新構成員紹介
4. 会議事項
 - (1) 校地検討会議報告
 - (2) 第5回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ
 - (3) 学びのイメージに係る意見交換

5. その他

次回の予定

【日時】 12月19日（木） 午後5時30分～7時

【場所】 塩尻市役所 5階 大会議室

【内容】 学びの具体化（新しい学校の中身の検討）に向けて

構成員からの提言 ～「地域」「情報」をキーワードに～

6. 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)
○座長

	区分	氏名 (座長○)	所属等	グループ
1	自治体	石坂 健一	塩尻市 副市長	B
2		○ 赤羽 高志	塩尻市教育委員会 教育長	A
3		根橋 範男	山形村教育委員会 教育長	C
4		百瀬 司郎	朝日村教育委員会 教育長	D
5		太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室 室長	A
6	産業界	小松 稔	塩尻商工会議所 会頭	C
7		林 修一	塩尻市観光協会 会長	B
8	学識 経験者	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科 准教授	欠
9		小林 敏一	エプソン情報科学専門学校 学校長	E
10	地域	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部 部長	D
11		松本 宏隆	セイコーエプソン株式会社P事業戦略推進部 部長	欠
12		横山 暁一	NPO法人MEGURU 代表理事	欠
13		宮島 克夫	松本地域振興局 局長	欠
14	同窓会	赤羽 誠治	塩尻志学館高等学校同窓会 会長	E
15		霜田 美奈	田川高等学校同窓会 会長	D
16	PTA	押田 博	塩尻志学館高等学校PTA 会長	D
17		菱田 岳士	田川高等学校PTA 会長	E
18		北沢 寿明	東筑摩塩尻PTA連合会 会長	B
19	小中学校 関係者	千村 哲朗	東筑摩塩尻校長会 代表 (広丘小学校 校長)	C
20		佐倉 俊	東筑摩塩尻校長会 代表 (塩尻中学校 校長)	欠
21		永田 寛尚	松本養護学校 校長	A
22	再編 対象校	熊谷 のい	塩尻志学館高等学校 生徒代表	E
23		中舎水鏡莉	塩尻志学館高等学校 生徒代表	C
24		浅川 夢羅	塩尻志学館高等学校 生徒代表	D
25		小岩井 一	田川高等学校 生徒代表	B
26		鈴木 脩也	田川高等学校 生徒代表	E
27		池田 葵	田川高等学校 生徒代表	A
28		堀内 雅司	塩尻志学館高等学校 校長	B
29		宮入 清志	塩尻志学館高等学校 教職員	A
30		宮坂 幸登	田川高等学校 校長	C
31		守屋 秀行	田川高等学校 教職員	D

事務局

塩尻志学館高等学校		田川高等学校		高校再編推進室	
丸山 明久	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
宮入 清志		守屋 秀行		宮嶋 直美	主任指導主事 (塩尻総合学科新校担当)
寺澤 顕孝				山崎 巖	主任指導主事 (塩尻総合学科新校副担当)
深澤和加枝					
高山 直之					
跡部 徹					
征矢 理啓					
中島 和成					

第5回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年(2024年)7月18日(木) 午後5時30分から午後6時50分		
場所	Core 塩尻		
出席 (敬称略、 ◎座長)	石坂 健一、◎赤羽 高志、根橋 範男、百瀬 司郎、太田 幸一、小松 稔、林 修一、中島 紀彦、横山 暁一、霜田 美奈、押田 博、菱田 岳士、北沢 寿明、千村 哲朗、佐倉 俊、要明 幸樹、布川 龍空、金 彰俊、齊藤 正太、竹内 輝隆、須澤 茉奈香、堀内 雅司、宮入 清志、宮坂 幸登、守屋 秀行 以上25名		
欠席 (敬称略)	渡邊修、小林敏一、松本宏隆、宮島克夫、赤羽誠治、永田寛尚 以上6名	傍聴	10名(内オンライン2名)、報道2社
事務局	塩尻志学館高校：丸山教頭(事務局長)、寺澤教諭、深澤教諭、高山教諭、征矢教諭、跡部教諭、中島教諭 田川高校：内川教頭(副事務局長) 県教育委員会：原主幹指導主事、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事		
会議事項	(1) 第4回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	次第、第4回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)、会議資料、グループワーク資料、配席図		
主な内容			
<p>(1) 第4回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ 質問、意見なし → 承認</p> <p>(2) 学びのイメージに係る意見交換</p> <p>① グループワーク</p> <p>(ア) 「こんな生徒を育てたい」「目指す学校像」について グループでの意見交換</p> <p>(イ) キャッチコピーづくりを通して「学びのイメージ」を共有する</p> <p>② 全体会 グループからの発表</p> <p>キャッチコピーとしてまとまらなかったグループもあったが、話し合いの様子を報告し全体で共有した。</p> <p>【Aグループ】</p> <p>◆生徒の「主体性」を中心に意見交換。学習の主体者としての姿勢を持ちつつ、その主体性を履き違えることなく、自律して責任を持ち、社会に進んで参加できる生徒の育成を目指していく。</p> <p>キーワード</p> <p>「自分を自分で育てる教育」「自ら求め、獲得する学びへ」「履き違わない主体性」</p> <p>「主体性と自律を見つけ、社会に進んで参加できる生徒」</p> <p>「責任を持ってほしい」「自身を律する場を作る」「自立」「常識・マナーを伝える」「我慢を覚える」</p> <p>「メンタルの強い生徒」「人の苦しみやつらさがわかる生徒」</p> <p>「キャリア教育を通して自分に合う職業を見つけられる生徒」「やりたいことを見つけられる生徒」</p> <p>【Bグループ】</p> <p>◆トップに据えたいのは「地域」。</p> <p>ゆとりのある学校で、コミュニケーション力や創造力をつけて地域の問題解決をする力を育む。</p> <p>主体的に取り組み、達成感を感じてほしい</p> <p>キーワード：「地域」「ゆとり」「コミュニケーション力」「創造力」「主体性」「達成感」</p> <p>【Cグループ】</p> <p>◆コミュニケーション能力が高い生徒を育てる</p> <p>キーワード</p> <p>「多様な学習ニーズに応える」「学校は地域みんなの学校」「自分で課題や目的が見つけられる生徒(人間)」</p> <p>「地域のスペシャリストが学校の先生。生徒たちは幅広く学べる。そんな学校が総合学科」</p> <p>【Dグループ】</p> <p>◆学校と社会のボーダーレス</p> <p>「一人一人が主役」である学校。時代が変わっても教育(設備、方法等)が変わっていない現状から、学校は社会の縮図であり、社会の変化にあわせて校則の見直し等を通して、社会への適応力を高めるべきであると考えた。</p> <p>この時代にそれを実現するには、地域はもとより世界と繋がることが重要だと考えた。</p> <p>キーワード</p> <p>「個が中心(一人一人が主役)」→「個別最適」「自己決定」「当事者」</p> <p>「教育は(時代は変わっても)当時のまま」→「変革(主体は自分)」「学校教育と社会」「学ぶ意味を考える」</p> <p>「学校は社会の縮図」→「社会への適応力」「他人の意見を受け入れる」</p> <p>【Eグループ】</p> <p>◆「普通のその先へ」</p> <p>「ゼロベースからスタート」「僕たちの夢を実現できる学校」「生徒も先生も地域も同志」</p> <p>新しい学校は普通科の高校と一緒にするので否定でなく一から新しい学校を作っていくたい。</p> <p>→(座長まとめ) 出された意見を事務局で整理し、次回の議論につなげる。</p>			
その他			
【次回】	日時：10月23日(水) 会場：core 塩尻 内容：学びのイメージの検討		

◆塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

「学びのイメージ」 検討手順

新しい学校が目指す姿

- ・懇話会趣旨説明（第1回）
- ・全国の先行事例（第2回）
- ・2校の学び紹介（第3回）
- ・視察報告（第4回）

共通理解

- ・育てたい生徒像
- ・目指す学校像
（第4、5、6回）

新しい学校の中身

- ・学びの柱
- ・どんなことができる学校
（第4回）
- ・特色あるカリキュラム
- ・魅力づくり

新しい学校の形

- ・設置課程、学科
- ・活用する校地、
- ・学びを実現するための施設
- ・想定する募集学級数 等

学びのイメージ



◆塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

須坂新校（仮称）再編実施基本計画

- 再編統合対象校**
 須坂東高等学校、須坂創成高等学校
- 募集開始（開校）年度**
 令和 11 年度
 今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であること、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。
- 活用する校地・校舎**
 須坂創成高等学校
 「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、専門科と新たな普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高等学校の施設・設備を活用する。部活動など生徒の自主的活動のため、引き続き旧須坂商業高等学校のグラウンドや体育館等の施設を活用する。
- 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数**
 全日制課程 農業科・工業科・商業科・みらいデザイン科（仮称）
 4 学科あわせて 7 学級程度を想定
 ※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。
 ※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。
 みらいデザイン科（仮称）は、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、地域社会に関する学科[※]として設置する。また単位制を導入し、他学科の授業も選択できる、個別最適な学びにふさわしい教育課程を編成する。
 北信地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。
 注）現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。
- 学びのイメージ**
 別紙のとおり
 地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想する。
- 施設整備**
 新校の学びに必要な施設及び、地域連携の実現のため必要な機能の整備を図る。
 施設整備に要する期間 6 年程度を想定

学びのイメージ

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像	育てたい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒 ○ 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒 ○ 多様な他者とつながり、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒
学校像	目指す	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む ○ 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む ○ 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む

地域の未来を、地域の方々と共創する
コミュニティデザインハイスクール

農業科 — 工業科 — 商業科 — みらいデザイン科（仮称）
※新たな普通科

4 学科の連携で地域の未来づくりに参画

▶ 専門科の学びで得た農業・工業・商業・デジタルなどの視点
▶ みらいデザイン科の探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

学びの柱

- ◆ 実践体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学習（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制
 学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化
 学校を飛び出しているアクティブな探究活動を学びの中心に
 コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携

連携
 地域を学ぶ国内外の高校生と交流

地域の方々と共同研究 ← 須高地域共学共創コンソーシアム → 新校が生涯学習の拠点

大学・専門学校 医療・福祉機関 地元企業・商工会 自治体 研究機関
 市役所

学びのイメージ 「育てたい生徒像」「目指す学校像」 素案

「第5回懇話会まとめ」グループからの発表、「これまでに出了意見」の中の言葉を中心に作成。

今後学びの具体や学びの柱を検討する中でさらにブラッシュアップしていく。

◇ キーワード

探究 (A)	
課題発見 (B)	地域連携、貢献、地域の学校、みんなの学校 (G)
主体性、自主性 (C)	社会を広くとらえる視野・世界とつながる (H)
行動力、粘り強さ (D)	開かれた学びの場、みんなの学校 (I)
多様性、多様な学び、普通のその先へ (E)	やりたいことをやれる、自己実現、可能性、ゆとり (J)
思いやり (他者理解、尊重) (F)	コミュニケーション力 (K)

◇ 育てたい生徒像

課題発見 (B) 地域 (G) たくましさ (D) 世界へ (H)	国際的な視野に立って、地域で課題を発見し、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒。くじけず！たくましく！
探究 (A) 自己実現 (J)	積極性、創造性、探究心、自己肯定感を高め、チャレンジする生徒 (自分の道を広げる、チャレンジ、積極性)
思いやり (F) コミュニケーション力 (K)	他者を思いやり豊かな心を持つ生徒 (愛、共助の心、想像力)

◇ 目指す学校像

多様性 (E) 他者理解 (F) 可能性 (J)	多様な経験や多様な人との出会い、多様性を認め、普通のその先へ！学校はオモシロイ！（多様性の学校）
多様性 (E) 可能性 (I)	多様な学び（選択）を通して、一人一人の可能性を高められる学校 (キャリア教育、個を大事に、個に寄り添った、個別最適な)
地域 (G)	地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校
自主性 (C) みんなの学校 (I)	社会と生徒とともに変化し発展する、生徒とともに作り続ける、生徒が主人公である学校 (教員も日々成長する＝学び続ける、研修)

	育てたい生徒像	目指す学校像	学び、どんなことができる学校にしたいか	地域連携
意見・要望書			<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学びの推進 生徒同士の学び合い、他者と協働した学び、地域社会における体験を通した学び、ICT、多様な生徒に個別に最適化された学びの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材や地域資源を最大限活用できる環境整備 組織的な連携の仕組みを構築 コーディネーターや外部人材の登用
再編・整備計画【三次】考えられる学校像		<ul style="list-style-type: none"> 自分だけの時間割を主体的に創りながら自らのキャリアを構想する、キャリアデザイン高校 県総合教育センターと連携し、総合学科高校をはじめとする県内の高校にオンライン授業を配信するセンター的機能を備えた高校 	<ul style="list-style-type: none"> 単位制のメリットを活かし、他校や大学の授業や学校外の学習などを単位認定 	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻市内唯一の県立高校として、両校の地域連携を継承する共学共創プラットフォームを構築し、地域資源を最大限活用する探究活動
第3回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> 自分の道を自分で選び自分で決める、それを自分の言葉で話せる人になってほしい。 他者への思いやりや道徳心も大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合学科とはこういうものだ」と発信できる学校。総合学科の中身を知る機会を増やすことで、一般的に認知され広がっていくと思う。 一人ひとりの個性・主体性が大切にされ、「あなたはあなたのままでいい」というメッセージに包まれた学校になってほしい。 ビジョン・ミッションを明確にして、広く志を持った学生を集めたい。 両校の伝統や持ち味、色合いを活かして、1+1が3にも4にもなるような学校になってほしい。 県内だけでなく全国にも広く知れ渡るような学校になってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様性に応える学びへの変革 主体的な取り組みと体験を通した学び 学ぶ意欲を喚起するために、興味関心に支えられた学習 探究学習と教科学習の融合 可能な限り多彩な「身体的経験」を伴う学習活動 	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりを増やして、より良くしていったほしい。 地域とのつながりを持っていくようにしてほしい。 地域社会と関わる学びを深めてほしい。 地域の住民、事業者、大学等研究機関、行政などとの「共創」を体験できる授業や機会 塩尻市から体験できるユニークなプロジェクト（ワイン、DX、自動運転等）への参画 塩尻市が保有する様々な行政アセット（スナバ、core塩尻、えんばーく、えんてらす等）を最大限活用していきたい。 地域社会とのつながりのある体験や学びを展開 活躍の場、チャンスの場として、ぜひ地域をどんどん活用してほしい。 地域の小中学校、専門学校も活用してもらい、そこで学んだことを単位として認めてもらえたらおもしろいのではないかな。
第4回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニケーション ○コミュニケーション能力が高い生徒 ○話を聞くことができる ○自分の意見が言える人間の育成 ■探究 ○探究的に学べる生徒 ○幅広く学び体験する中から、自分のやりたいことを見つけ、とことん追究する生徒 ■創造力・独創性 ○アイデアが出せる ○創造力のある生徒 ■主体性、自主性 ○大学生のような主体性・自主性のある生徒 ■行動力・粘り強さ ○メンタルを強く ○行動力と発想力 ■社会とのかかわり ○社会に貢献できる ○地域との関わりを大切にできる生徒 ○社会を変えるために学び地域の課題を解決できる生徒 <p>各グループのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの事に関心を持ち主体的に活動し、失敗からも学ぶ姿勢を持てる生徒 ○主体性・自主性を持ち地域と関わり、地域の課題を見つけ解決できる生徒 ○地域の課題を見つけ、主体的に解決することができる生徒 ○学校は「きっかけ」づくり。本当の実践は地域の中で養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■やりたいことをやれる環境 ○頑張りたいことを語れる学校 ○やりたいことをやれる「環境・時間」を確保した学校 ○自分の学びたいことを専門的に学び深めることができる学校 ○原点に戻り、進学にこだわらないやりたいことのできる学校 ■自己実現 ○自己実現ができる学校 ○自分の考えを自ら発言できる学校 ○自然環境と社会科学を融合できる学校 ■主体的 ○様々なことを学び、生徒自身が主体的に考えることができる学校 ■多様性、思いやり ○多様性を受け入れる学校 ○他者の意見を尊重しながらお互いの意見を交換できる学校（他者尊重） ○良識や思いやりを育てられる学校 ■開かれた学びの場 ○自ら育てる、他と共に育み合う学校 ○子供だけでなく大人も含めた「学びの場」 ○地域と連携した学校 <p>各グループのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域連携」「中高連携」「公私連携」により、学びの幅を深める。 ○多くの選択を繰り返しながらその選択の材料となる「経験」を多く実現できる学校を目指したい ○多様なニーズに応えられ、生徒自身が主体で何でも学べる学校 	<ul style="list-style-type: none"> ■魅力ある学校 ○この学校で学びたいという魅力を持った学校 ○「行きたい」と思える学校 ■表現を学ぶ ○自己表現を磨ける学び ○学び→まとめ→伝える（表現） ○総合学科発表会のテーマを選ぶだけでなく、自分で決められるなど幅を持った学校 ○校則は生徒が作ることができる学校 ■地域、社会 ○地域に貢献できる生徒 ○地域と繋がりのある学校 ○サポートしたい学校 ○社会と結ぶことができる学校 ■生きる力、学び続ける力 ○机上の与えられる学力、記憶力を有するだけでなく、社会を広く見ることができる能力、「生きる力」を与えられる、また取得できる学校 ○10年後も20年後も学び続けられる ○課題：生徒が15歳で自ら選択できるだろうか <p>各グループのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域と繋がりが関わりのある学校（具体的に塩尻のぶどうとワイン、デジタルの先駆けのエブソンと関わる学校） ○「体験」（地域、社会、大人）から学ぶ。朝日、山形、塩尻市をフィールドに学ぶ。 ○将来、「学び続けられる力」、「生きる力」を養うために幅広く経験ができる学校 	
第5回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> 【育てたい生徒像】 ■学習の主体者としての姿勢を持ち、自律して責任を持ち、社会に進んで参加できる生徒の育成 ■「コミュニケーション能力が高い生徒育てる総合学科」 <p>(キーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「多様な学習ニーズに応える」 「学校は地域みんなの学校」 「自分で課題や目的が見つけられる生徒（人間）」 「地域のスペシャリストが学校の先生。生徒たちは幅広く学べる。そんな学校が総合学科」 	<ul style="list-style-type: none"> 【学び、学校像】 ■「地域に」「地域を」 ■「学校と社会のボーダレス」 ■「普通のその先へ」 「生徒も先生も地域も同志」「僕たちの夢を実現できる学校」「ゼロベースからスタート」 ■ゆとりのある学校で、その中でコミュニケーション力や創造力をつけて、地元の問題解決をする力を育む。主体的に取り組む、その中で達成感を感じてほしい。 <p>(キーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域」「ゆとり」「コミュニケーション力」「創造力」「主体性」「達成感」 ・「個が中心（一人一人が主役）」→「個別最適」「自己決定」「当事者」 ・「教育は（時代は変わっても）当時のまま」→「変革（主体は自分）」 「学校教育と社会」「学ぶ意味を考える」 ・「学校は社会の縮図」→「社会への適応力」社会とつながる学び ・「他人の意見を受け入れる」 ・「環境作り」→「地域連携」「海外」 ・「つくる、生み出す側から」→「世界とつながる新校」「学校と社会のボーダレス」 		